

アトリエ 琉游舎 だより 124号

アトリエ琉游舎 ryuyusha.com/
 琉游舎for healing <https://toi101izuru.wixsite.com/mysite-3>

2022年2月9日発行

初午 稲荷しもつかれ

- 今年の初午（はつうま）は2月10日です。初午は2月初めの午の日をいいます。穀物の神様が稲荷山に降臨したのが初午であったことから、稲荷神社の祭日として親しまれるようになりました。「稲荷」は「稻生り」に由来し、農村では各家どこでも「稲荷神」を祀っていたようです。この風習と稲荷神の使いとされるキツネは家を守るという考えが結びつき、全国の稲荷神社では豊作、商売繁盛、家内安全などを祈願する初午祭が行われています。
- 初午に供えられる代表的な食べ物は油揚げに稲荷寿司です。キツネの大好物と言われていますが、本当なんでしょうか。その他に繭のかたちに作った団子を供える初午だんごや旗をまきつけた棒の先に飴をつけた旗飴などがあるようです。そして栃木県は「しもつかれ」です。
- 「しもつかれ」は初午に、わらをたばねて作った「わらづと」に入れて、赤飯といっしょに稲荷神社にそなえる行事食です。今では、その様な行事をしている農家も少なくなったかもしれませんが、新年（初春）を迎えて今年の農作物の豊作を祈る大切な日だったのです。
- しもつかれは鬼おろしですった大根やにんじん、鮭の頭油揚げ大豆を酒粕などで煮こんだものです。栄養満点で、各家庭で味も異なり「七軒の家のしもつかれを食べると病気にならない」と言われていますが、子供にとっては独特な見た目と酒粕の匂いで、とても食べられたものではありませんでした。しかし今では「しもつかれ」なしの2月を過ごすことはできません。夜は酒の肴、朝はご飯のおかずと、妻にお願いして毎年2回は作ってもらっています。
- 1月末から2月の上旬にかけて、全国の鮭の頭たちは一斉に栃木県に送られてくるでしょう。他の地域では捨てるしかない食材が、栃木県のスーパーで鮭の頭2つが350円から500円ほどで売られています。鮭の命を頭まで頂く生き物は熊と栃木県民だけかもしれません。
- 鮭の頭と酒粕の力で、ここ数年は風邪をひいたことはありません。おまけにお酒で温まった体で熟睡し、爽快な寝覚めのままの朝勤で仏様の力を頂く毎日は、新型コロナも侵入する余地はないはずです。今日もそのパワーを頂くしもつかれとお酒の夕餉が待ち遠しい1日です。

写経会 般若心経・自我偈・観音偈の手本
3月6日(日) を用意しています。初めての方も
13時半 すぐにできます。

読書会 今年から「阿弥陀経」を読みます。
2月22日(火) 浄土の姿を描いた、お経です。テ
13時半 キストをご用意しています。

2月17日(木)
映画会
お休みします

2/10 木	13時半	緋文字 (70分)	ヘスターは夫が不在の間に、街の牧師と姦淫の罪を犯してしまい、、、この作品を通して ピューリタン時代の米国社会の様相を描いたホーンソンの代表作
2/17 木		映画会お休み	
2/24 木	13時半	北西騎馬警官隊 (120分)	ゲーリー・クーパー主演。1885年カナダ北西部で、先住民の混血族メディス率いる反乱軍と 北西騎馬警官隊との戦いを描いたセルシ・デミル監督の大作映画
3/3 木	13時半	久遠の誓い (82分)	ゲーリー・クーパー主演。詐欺をしながらその場凌ぎの生活を楽しんでいたジェリー。ある日 別居中の妻の兄から手紙が届き、妻が亡くなり娘のベニーの親権を譲って欲しいと言われる。
3/10 木	13時半	そして誰もいなくなった (97分)	アガサ・クリスティ原作、謎のオウエン氏から孤島に招かれた10人の男女。彼らは皆、事件 とも事故ともとらえられる過去を背負っていた。やがて童謡の歌詞通りに起こる殺人事件。

毎日5時に起床する生活を始めて5年以上が経ちました。決まった時間に起きれば必ず決まって22時に眠くなります。決まった時間の7時と12時と19時にお腹がすきます。山登りで4時に起床したときは確実に21時には眠くなります。温泉で山の疲れを癒そうとしても、21時まで宿で起きていられたことはありません。体内時計が忠実に機能していることがよく分かります。私の一日の活動可能時間は17時間、エネルギー補給は3回、充電時間は7時間というこの心身のリズム通りに私は毎日を生かされているようなのです。時の法則とともにあると実感できる日々は、時に追われ競争して過ごしたかつての日に比べて贅沢な毎日に違いありません。

同じ5時でも夏と冬の5時は全く違います。夏の5時は既に太陽の光に覆われて、ここから気温はうなぎ登りです。冬の5時は真っ暗。ここから日の出直前までどんどん気温は下がっていきます。5時の夏と冬の気温差は約30度、明るさは0と100です。本来人間も動物ですから明るくなるとともに活動し気温が下がるとともに活性が鈍るはずです。冬の5時はまだ寝ているはずの時間。活発な活動のできない季節です。原始時代の人類は洞窟にうずくまって冬眠に近い生活を送っていたのでしょうか。そう考えると私の体内時計に従った年中不変の毎日は、太陽の運行に従った生活とは異なる人間社会にだけに通用する時間なのかもしれません。

私たちの生活は1日から始まります。生活を支配する最小単位です。人類はその日暮らしではないある法則性に従った生き方を選択したために、一日一月一年の長さを知ることが必要となりました。これが時を定め暦を作ることです。時は太陽や月が支配するものです。これは自然の法則、宇宙の真理、神の司るところです。かつてはその法則を知り得たものが地上の支配者となりました。例えば古代中国では天子は太陽や天体の運行を観察して把握することで暦を自在に操り、時を支配していると位置づけられ、天帝（造物主・神）の子として地上の支配権を任されていると考えられたのです。暦を作ることができるのはどこの国でも統治者だけです。日本では朝廷や幕府、そして現在は法律（国家）が暦を定めます。宇宙（神）の法則を人間が生きていくための社会の法則にブレークダウンしたものが暦や時間と考えれば、その国、その民族、その風土、その時代に必要な「時」があつてしかるべきものだったのです。かつて暦は農作物の生産のために作られたものでしたが、今は24節気72候の暦を見て畑を耕したり種を蒔いたりする人はいないでしょう。「時」と人間や社会との関係は時とともに変わっていくものです。今、私たちと「時」はどのような関係にあるのか、その関係性を見定めることで、私たちは自分の持つことが可能な「時」を知ることができるでしょう。

仏教の時間観に「六時（りくじ）」があります。一昼夜を晨朝・日中・日没・初夜・中夜・後夜の六つに分けたものです。晨朝は朝の六時から十時までの時間です。以下四時間単位で「六時」の時間が移っていきます。仏教が盛んな頃のインドではこの時刻ごとに念仏や読経などの勤行をしました。この時間観がそのまま中国から日本に伝わり、今でも浄土宗の寺院では「六時礼賛」と呼ぶ法要が念仏三昧のひとつとして行われています。四時間ごとに一日六回、まさに四六時中念仏三昧の日々です。これは仏教徒の中でも念仏者の時間観です。私はつい最近までこの「六時」という言葉の意味合いを知りませんでした。ところが読書会で読み始めた「阿弥陀経」の中の極楽を描写する中に「昼夜六時に、曼陀羅華をふらす」という表現があり、初めてこの時間観の本質を知ることができました。念仏者にとっては念仏三昧が信行一致の行いと考えられているため「六時」の時刻、つまり「四六時中」念仏行を行う必要あるのです。「六時」は彼らにとって重要な時間観なのです。行住坐臥すべてが念仏です。つまり歩くこと、止まること、坐ること、臥すことこの日常の立ち振る舞いすべてが念仏なのです。ところで、法華経の徒である私の信行一致はこの社会（娑婆）を歩き続けることにあります。歩き続けることで出会った「人」や「事」とともに「行う」ことです。これが私の「行住坐臥」です。ですから私の「信行」に「六時」という時間観がないのは当然のことなのです。

出家者は社会の時間や規範から一度離脱し、修行によって出家者の時間や規範を獲得して再び社会に戻ってくる者と私は考えます。離脱した時に獲得したお釈迦様の弟子としての「時」を、社会の中で再び生きていくための「時」として行い続けることです。その「時」を獲得するために私は厳しい修行（厳しくはあっても苦しくはありません）をしてきました。これは肉体的精神的な束縛の厳しさではありません。出家者としての時をお釈迦様から与えられるのか、そしてその時のままに行い続けることができるのかということが四六時中間われ続ける厳しさです。その問いかけから立ち上がって歩みを始めたその時、私たちはお釈迦様の時を共有することが出来るのです。物理的社会的な時に束縛されない融通無碍、全き自由な「時」です。

現在私の体内に備え付けられた「時」は、果たしてお釈迦様と共有している「時」なのか私には分かりません。ただはっきりと言えることは、毎日5時に起き活動可能な17時間と3度のエネルギー補給と7時間の充電時間の繰り返しの毎日は、私にとってはありのままに歩むことの出来る自由な「時」だということです。そして、お釈迦様の時と今私の体内に内蔵されている時と社会の時が、一つの時計盤の中で同じ「時」を刻み始めた時、私は私の「時」を知ることが出来るはずです。それは私の行いの指し示す道を知ることなのです。今ある「ありのままの時」に導かれるままに行うこと、それがお釈迦様と時を共有することなのです。

冬の朝は風の音以外は何も聞こえません。夏の朝は鳥の囀りと蝉の鳴き声の競演です。琉游舎：戸井 出琉・恭子
もう2週間もすると鶯の鳴き声で起こされることでしょう。時を知る自然 お問い合わせ：0287-53-7848 08033508152
の声に、私も時を知る早朝五時。お釈迦様への朝のごあいさつの時間です。矢板市大槻2319-17コリーナ矢板C-850
メール：toi10lizuru@outlook.jp